

## 令和5年度第1回茨城県立医療大学運営協議会 次第

日 時：令和5年7月25日（火）14:00～

場 所：Web会議（Zoom）／教授会室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

3 議 題	[資料NO.]	[ページ]
(1) 大学の運営状況について	【資料1】	
① 志願・入学状況について (学部、大学院、助産学専攻科、認定看護師教育課程、専任教員養成講習会)		1
② 就職状況、国家試験結果について		6
③ 研究費の配分・獲得状況等について		8
④ 本学の教育ランキングについて		10
(2) 大学運営組織の改正について	【資料2】	11
(3) 大学院博士前期（修士）課程について	【資料3】	13
(4) 初年次教育への取り組みについて	【資料4】	16
(5) アクションプラン後期計画について	【資料5】	17
(6) 附属病院の運営状況について	【資料6】	18
(7) 国際交流について	【資料7】	20
(8) その他		

### 4 閉 会

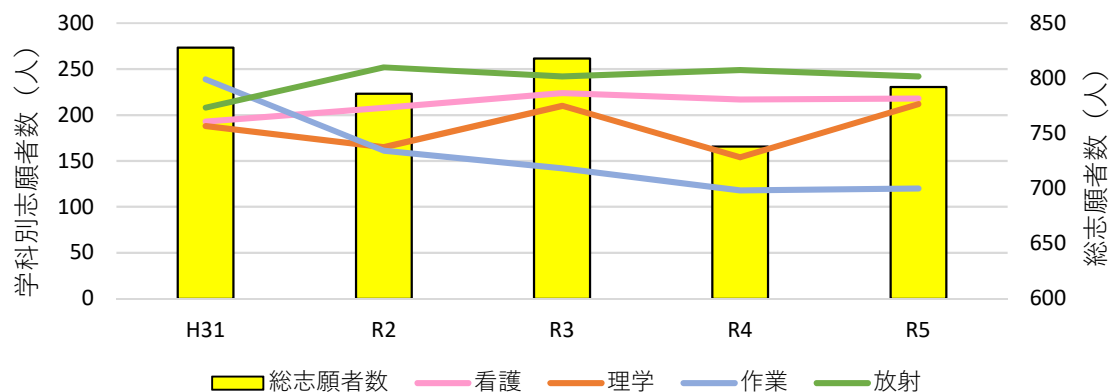
(1) 大学の運営状況について

①志願・入学状況について

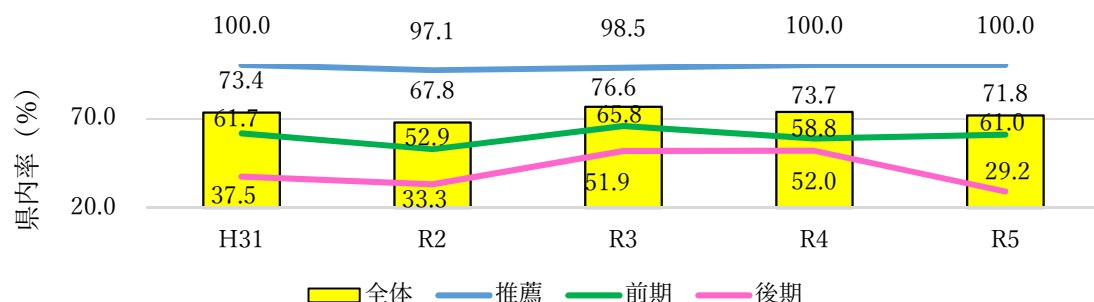
【保健医療学部】令和5年度学部入試出願状況

区分	学科	募集人員 A	令和5年度入試			令和4年度入試		
			志願者数 B	志願倍率 B/A	入学者	志願者数 C	志願倍率 C/A	入学者
学校推薦型	看護学科	20	91	4.6倍	20	77	3.9倍	20
	理学療法学科	16	54	3.4倍	16	35	2.2倍	16
	作業療法学科	16	33	2.1倍	16	27	1.7倍	16
	放射線技術科	16	54	3.4倍	16	53	3.3倍	16
	計	68	232	3.4倍	68	192	2.8倍	68
社会人特別選抜	看護学科	若干名	1	-	0	2	-	1
	理学療法学科	若干名	1	-	0	1	-	1
	作業療法学科	若干名	0	-	0	1	-	0
	放射線技術科	若干名	0	-	0	1	-	0
	計	若干名	2	-	0	5	-	2
前期日程	看護学科	25	62	2.5倍	26	67	2.7倍	20
	理学療法学科	19	56	2.9倍	18	36	1.9倍	19
	作業療法学科	19	39	2.1倍	19	38	2.0倍	20
	放射線技術科	19	69	3.6倍	19	79	4.2倍	21
	計	82	226	2.8倍	82	220	2.7倍	80
後期日程	看護学科	5	64	12.8倍	5	71	14.2倍	10
	理学療法学科	5	101	20.2倍	8	82	16.4倍	6
	作業療法学科	5	48	9.6倍	5	52	10.4倍	5
	放射線技術科	5	119	23.8倍	6	116	23.2倍	4
	計	20	332	16.6倍	24	321	16.1倍	25
合計	170	792	4.7倍	174	738	4.3倍	175	

過去5年の志願者数の推移



学部入学生の県内出身者割合の推移

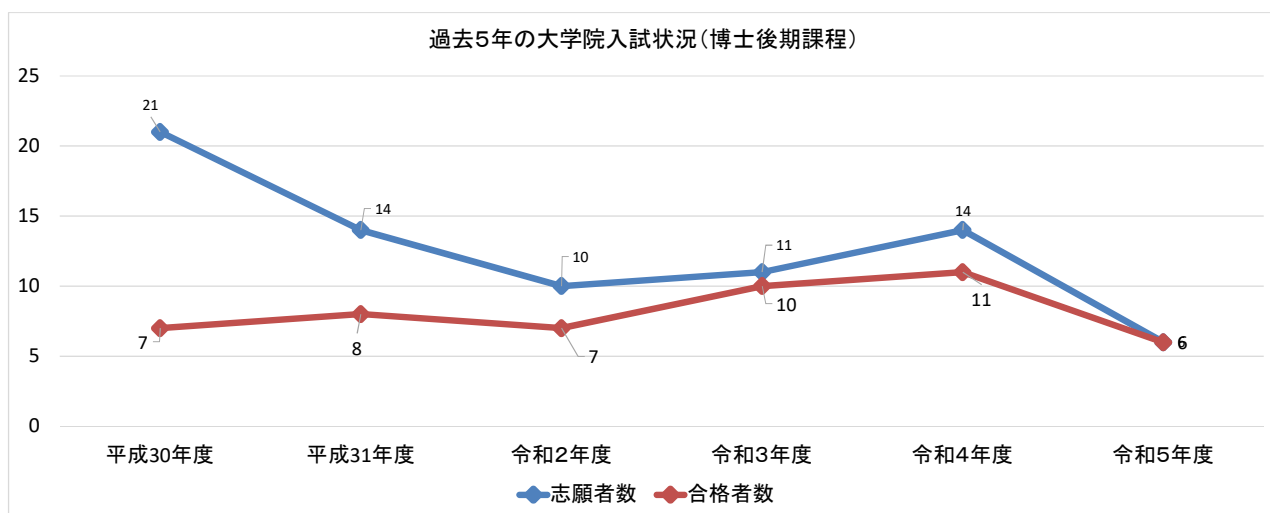
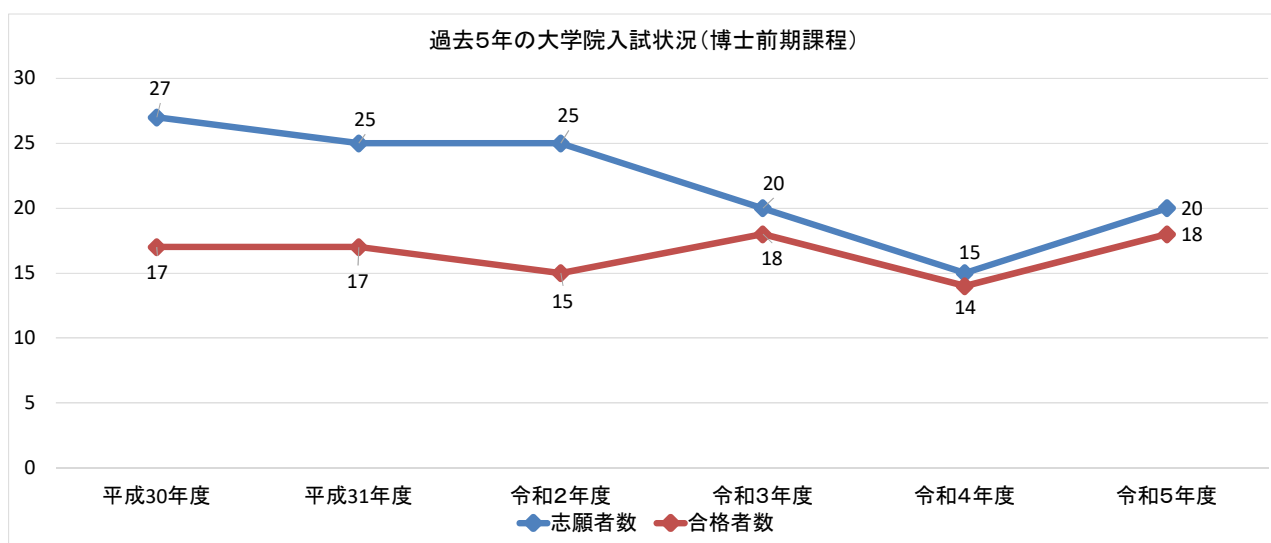


## 【大学院】 志願・入学状況について

課程	専攻名		募集人員	平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
				志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
博士前期課程	看護学		6	12	7	11	7	12	3	7	6	8	8	9	8
	理学療法学・作業療法学	理学療法学領域	6	7	4	8	5	9	6	7	6	4	4	3	3
		作業療法学領域		3	2	2	2	1	1	3	3	2	1	3	3
	放射線技術科学		3	5	4	4	3	5	5	3	3	1	1	5	4
計			15	27	17	25	17	27	15	20	18	15	14	20	18
博士後期課程	保健医療科学	看護学領域	5	7	1	7	4	6	3	7	6	5	2	3	3
		理学療法学領域		7	5	1	1	1	1	3	3	6	6	2	2
		作業療法学領域		2	0	3	1	2	2	0	0	3	3	0	0
		放射線技術科学		5	1	3	2	1	1	1	1	0	0	1	1
	計			5	21	7	14	8	10	7	11	10	14	11	6

※1 令和6年度入試は、10/1（日）実施。合格者発表は、10/27（金）。

※2 二次募集があった年度は、二次募集の志願者数及び入学者数を含む。



## 【助産学専攻科】 志願・入学状況について

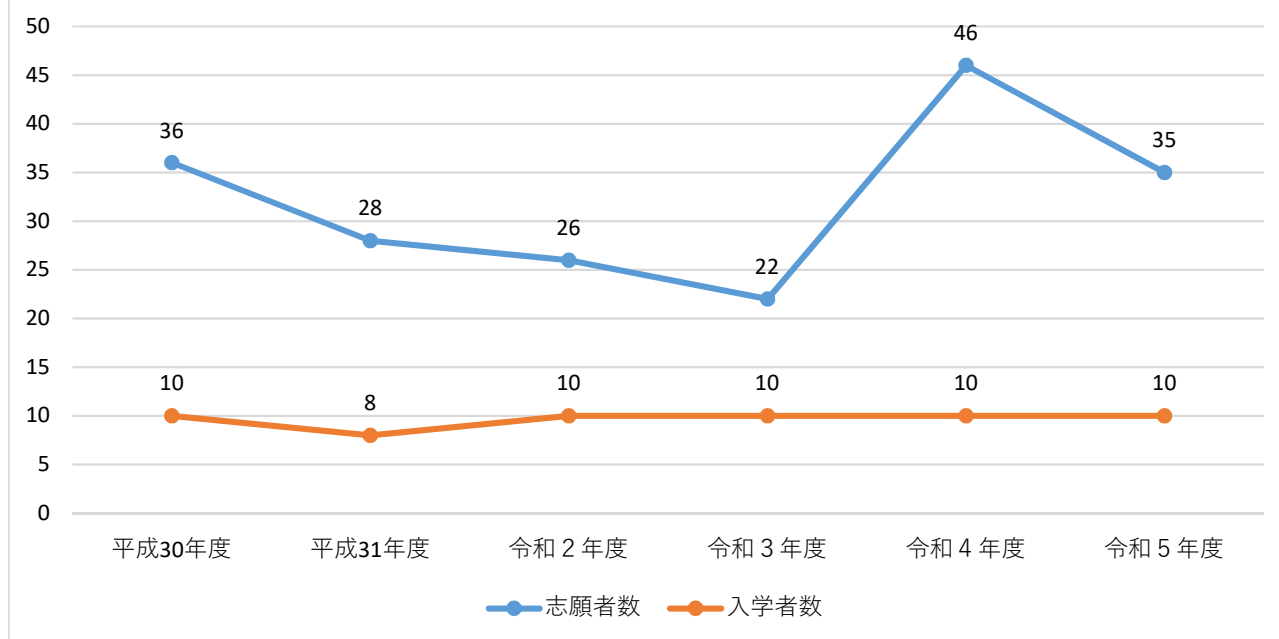
		募集人員	平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
			志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	志願者数	入学者数
学内		3	—	—	3	2	3	2	4	3	6	3	6	3
推薦	学校	3	—	6	—	3	—	2	1	3	7	3	3	3
	施設		6	4	3	3	2	2	1	3	1	3	3	
一般		4	30	4	21	3	20	6	15	4	32	4	23	4
計		10	36	10	28	8	26	10	22	10	46	10	35	10

※1 学内選抜は、平成31年度入試より開始

※2 学校推薦は、令和3年度入試より開始

※3 本年度は学内選抜を6/16実施（出願5名）、推薦・一般入試は、9/2（土）実施予定。

過去5年の助産学専攻科の入試状況



○茨城県立医療大学 認定看護師教育課程 受講状況等について

(募集人員：20名)

(単位：名)

年 度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	総数	(うち 県内)	総数	(うち 県内)	総数	(うち 県内)	総数	(うち 県内)	総数	(うち 県内)	総数	(うち 県内)
出願者数	33	5	27	5	18	1	14	1	21	1	26	2
受験者数	33	5	27	5	18	1	11	1	21	1	26	2
合格者数	20	4	23	5	15	1	11	1	21	1	22	1
受講者数	20	4	19	5	15	1	11	1	20	1	19	1
修了者数	19	4	17	5	14	1	11	1	19	1		

(令和3年度からB課程に移行)

○茨城県専任教員養成講習会 修了状況について

(募集人員：令和3年度まで30名、令和4年度以降20名程度)

(単位：名)

年 度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
修了者(県内)	9	9	10	11	13	8
修了者(県外)	12	2	1	0	3	3
合 計	21	11	11	11	16	11

(令和5年度は現時点の受講者数)

## 入試改革による若手人材確保と定着

- 18歳人口減少による入試動向の変化（年内入試の増加）

⇒ 「後期入試」廃止（2025入試～）（県外出身、県外就職が多数）

⇒ 「学校推薦型選抜（県内高校から）」 「前期入試」の枠を増員

⇒ 県内就職率（現状70%）を維持

・ 2023.3卒 69.0%（全就職者158名 うち県内109名）

・ 2022.3卒 70.4%（ " 162名 " 114名）

・ 2021.3卒 59.2%（ " 169名 " 100名）

## ②就職状況、国家試験結果について

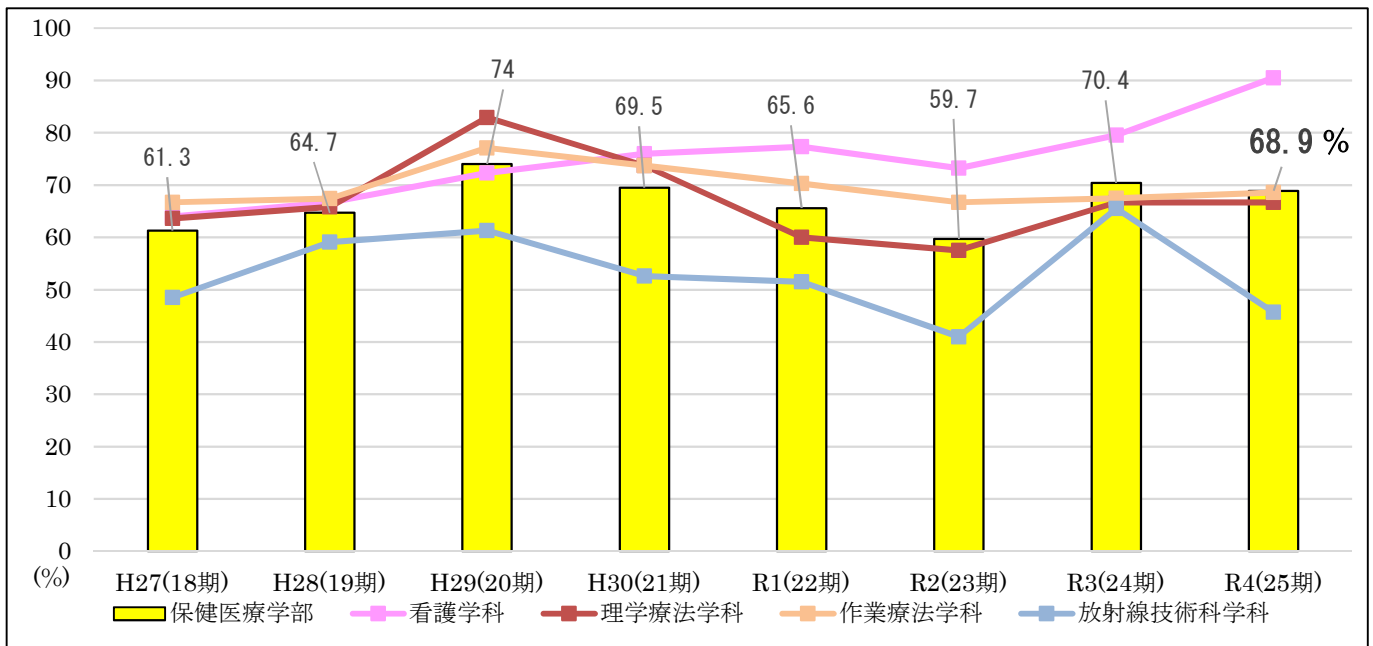
### 第25期生（令和5年3月卒業者）の進路について

- 学部卒業生の県内就職率は近年約7割を維持しています。
- 県内就職を促進するために、キャリア支援センターが中心となり、県内医療機関との交流会などを行っています。
- 令和4年度の学部の就職状況（6月23日現在）は、教職員の取組み、新型コロナウイルス感染拡大による求人数減少からの回復などにより、就職率は100.0%、県内就職率は68.9%となっています。

#### 1 就職状況（R5.6.23 現在）

学 科	卒 業 数	就 職 希 望 者 数 (A)	就 職 者 数 (B)	就職者数(B)の内訳		就 職 率 (%) (B)／(A)	県内就職率 (%) (C)／(B)	
				県内 (C)	県外			
学 部	看護学科	49	42	42	38	4	100.0	90.5
	理学療法学科	39	36	36	24	12	100.0	66.7
	作業療法学科	37	35	35	24	11	100.0	68.6
	放射線技術科学科	41	35	35	16	19	100.0	45.7
	計	166	148	148	102	46	100.0	68.9
助産学専攻科		10	10	10	7	3	100.0	70.0
学部・専攻科 合計		176	158	158	109	49	100.0	69.0

#### 2 学部卒業生の年度別県内就職率の推移



#### 3 令和4年度の県内定着率向上のための取組

- 就職ガイダンス（3年次対象2回、4年次対象1回）、就職対策講座（8月、3講座）
- 就職説明会（NS：3年3月、OT：8・9月、RS：6月、PT：8月の県理学療法士会主催の就職説明会参加）
- キャリア支援センター会議の開催（4～3月、4回）、就職相談（随時）
- 卒業生との連携強化

#### 4 令和4年度国家試験の合格状況

##### (1) 資格別合格状況

試験区分	受験者	合格者	本学合格率	全国合格率(新卒)
保健師	49	49	100.0%	96.8%
助産師	10	10	100.0%	95.9%
看護師	49	49	100.0%	95.5%
理学療法士	39	38	97.4%	94.9%
作業療法士	37	36	97.3%	91.3%
診療放射線技師	41	40	97.6%	94.1%

##### (2) 10年間の合格率推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
保健師	98%	100%	94%	94%	96%	95%	100%	100%	92%	100%
助産師	100%	100%	100%	91%	100%	100%	88%	100%	100%	100%
看護師	98%	98%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	100%
理学療法士	100%	100%	100%	100%	95%	97%	95%	98%	100%	97%
作業療法士	95%	95%	97%	96%	100%	97%	100%	100%	95%	97%
診療放射線技師	95%	90%	100%	100%	95%	100%	97%	95%	94%	98%
		合格率100%			合格率95%以上100%未満					



### ③研究費の配分・獲得状況等について

#### 1 研究費の配分・獲得状況

2023.6.20 時点(単位:件,千円)

		H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	
県費	学内公募研究	件数	28	28	27	17	18	22
		金額	17,910	17,320	17,500	14,645	18,045	17,908
	特別電源交付金	件数	12	13	15	13	12	9
		金額	77,839	58,086	49,447	57,540	28,524	18,243
	小計	件数	40	41	42	30	30	31
		金額	95,749	75,406	66,947	72,185	46,569	36,151
外部資金	科学研究費助成事業 (基金助成金,補助金)	件数	36	41	48	60	65	66
		金額	36,160	47,500	47,330	62,166	49,230	49,400
	日本医療研究開発機構 (AMED) 補助金	件数	-	1	2	1	1	2
		金額	-	24,700	10,410	5,200	3,946	1,650
	受託研究	件数	4	4	2	1	2	1
		金額	7,740	7,130	3,250	1,040	1,340	1,040
	共同研究	件数	3	5	2	8	1	1
		金額	1,090	3,660	1,270	4,445	770	100
	小計	件数	43	51	54	70	69	70
		金額	44,990	82,990	62,260	72,851	55,286	52,190
	合計	件数	83	92	96	102	99	101
		金額	140,739	158,488	129,207	145,036	101,855	88,341

#### 2 科研費採択等の状況

##### (1) 採択率の推移

採択年度	新規採択件数(※)	応募総数	新規採択率%
平成30年度	16	82	19.51
令和元年度	17	89	19.10
令和2年度	17	81	20.99
令和3年度	19	76	25.00
令和4年度	13	67	19.40
<b>令和5年度</b>	<b>14</b>	<b>54</b>	<b>25.92</b>

- ・令和3年度向け応募分からは、民間業者による申請書のレビュー支援を導入。
- ・令和4年度は、研究・学術メディア委員会による研究支援研修会を計12回開催。また、学内で“研究支援アドバイザー”制度を導入し、学内教員間での協力体制の構築を模索する等、各種の科研費申請支援を実施。
- (※)新規採択件数には、応募時に本学に在籍したが、その後他機関へ転籍した者も含む。

##### (2) 令和5年度実施件数

研究種目	実施件数		
	新規	継続	小計
基盤研究(B)	0	2	2
基盤研究(C)	11	30	41
挑戦的研究(萌芽)	0	1	1
若手研究	2	16	18
奨励研究	0	1	1
研究活動スタート支援	0	3	3
計	<b>13</b>	<b>53</b>	<b>66</b>

※R5年度途中で他機関からの転入時に本学に移管した科研費は「継続」件数に含む。

### 3 保健医療系単科公立大学の科研費獲得額(上位10大学)

(単位:千円、人)

順位	大学名	直接経費	間接経費	合計	【参考】 本務教員数
1	埼玉県立大学	73,220	20,646	93,866	167
2	<b>茨城県立医療大学</b>	<b>48,919</b>	<b>14,546</b>	<b>63,465</b>	<b>92</b>
3	神奈川県立保健福祉大学	43,500	13,050	56,550	119
4	神戸市看護大学	41,700	11,865	53,565	55
5	青森県立保健大学	22,500	6,750	29,250	91
6	石川県立看護大学	19,600	5,880	25,480	50
7	香川県立保健医療大学	19,060	5,718	24,778	49
8	三重県立看護大学	17,100	5,130	22,230	52
9	大分県立看護科学大学	16,900	5,070	21,970	55
10	新潟県立看護大学	15,800	4,740	20,540	49
	平均(保健医療系単科公立大学全体)	20,525	6,033	26,558	68

注:2022年度公立大学実態調査結果をもとに作成。金額は、新規採択課題と継続課題の合計額。

# (1) ④ Times Higher Education 日本の大学ランキング(2023)

				教育 リソース	教育 充実度	教育 成果	国際性		
151-200	151-200	群馬県立女子大学	公立	群馬県	-	65.8	15.6-26.3	55.8	34.7-41.0
151-200	151-200	北陸大学	私立	石川県	-	48.9-56.1	-	65.8	34.7-41.0
151-200	131-140	兵庫医科大学	私立	兵庫県	65.4	-	-	-	34.7-41.0
151-200	201+	茨城県立医療大学	公立	茨城県	51.2	48.9-56.1	-	-	34.7-41.0
151-200	201+	石川県立大学	公立	石川県	53.6	-	15.6-26.3	-	34.7-41.0
151-200	151-200	岩手県立大学	公立	岩手県	44.4	58.5	15.6-26.3	-	34.7-41.0
151-200	151-200	日本女子大学	私立	東京都	34.8	64.3	15.6-26.3	27.7-40.5	24.7-41.0
151-200	201+	茨城県立医療大学	公立	茨城県		51.2	48.9-56.1		-
151-200	131-140	北北医療大学	私立	石川県	22.0-31.0	48.9-56.1	32.2	55.2	34.7-41.0
151-200	151-200	関西医科大学	私立	大阪府	68.9	-	-	-	34.7-41.0
151-200	151-200	清泉女学院大学	私立	東京都	-	48.9-56.1	-	84.0	34.7-41.0
151-200	151-200	神戸女学院大学	私立	兵庫県	-	59.2	15.6-26.3	59.3	34.7-41.0
151-200	201+	東北公益文科大学	私立	山形県	-	57.4	15.6-26.3	51.0	34.7-41.0
151-200	151-200	久留米大学	私立	福岡県	50.1	48.9-56.1	15.6-26.3	-	34.7-41.0
151-200	151-200	共愛学園前橋国際大学	私立	群馬県	-	60.6	-	68.8	34.7-41.0
							15.6-26.3	-	34.7-41.0
							28.3	27.7-40.5	34.7-41.0
							15.6-26.3	40.9	34.7-41.0
							34.8	56.0	34.7-41.0
							-	42.7	34.7-41.0
							26.8	-	34.7-41.0

昨年度よりも1ランクアップ！  
保健医療系単科公立大学では唯一の151-200位にランクイン

## 他の保健医療系単科公立大学

- 埼玉県立大学(201+)
- 青森県立保健大学(-)
- 山形県立保健医療大学(-)
- 群馬県立県民健康科学大学(-)
- 千葉県立保健医療大学(-)
- 神奈川県立福祉大学(-)
- 香川県立保健医療大学(-)
- 愛媛県立医療技術大学(-)

## 県内大学

- 筑波大学(9)
- 茨城大学(101-110)

151-200	131-140	宮崎国際大学	私立	宮崎県	-	48.9-56.1	-	91.4	34.7-41.0
151-200	NR	長崎外国語大学	私立	長崎県	-	-	-	85.7	34.7-41.0
151-200	151-200	大阪経済法科大学	私立	大阪府	-	48.9-56.1	-	72.9	34.7-41.0
151-200	151-200	大阪工業大学	私立	大阪府	31.6	48.9-56.1	15.6-26.3	-	34.7-41.0
200	151-200	大阪女学院大学	私立	大阪府	-	48.9-56.1	-	94.4	34.7-41.0
200	151-200	大阪医科薬科大学	私立	大阪府	65.4	-	-	-	34.7-41.0
200	151-200	熊本県立大学	公立	熊本県	22.0-31.0	48.9-56.1	15.6-26.3	42.0	34.7-41.0
200	151-200	埼玉医科大学	私立	埼玉県	60.2	-	-	-	34.7-41.0
200	151-200	成蹊大学	私立	東京都	22.0-31.0	57.9	31.0	40.7	34.7-41.0
200	151-200	曹修大学	私立	東京都	-	58.7	31.4	27.7-40.5	34.7-41.0
200	151-200	滋賀県立大学	公立	滋賀県	37.9	-	30.4	43.7	34.7-41.0
200	151-200	昭和大学	私立	東京都	65.1	48.9-56.1	-	-	34.7-41.0
200	151-200	崇城大学	私立	熊本県	22.0-31.0	48.9-56.1	15.6-26.3	47.0	34.7-41.0
200	201+	公立諏訪東京理科大学	公立	長野県	22.0-31.0	48.9-56.1	32.6	27.7-40.5	34.7-41.0
200	151-200	拓殖大学	私立	東京都	-	48.9-56.1	26.6	68.8	34.7-41.0
200	201+	多摩美術大学	私立	東京都	-	48.9-56.1	40.8	27.7-40.5	34.7-41.0
200	151-200	玉川大学	私立	東京都	32.4	48.9-56.1	35.6	27.7-40.5	34.7-41.0
200	151-200	東邦大学	私立	東京都	50.8	48.9-56.1	29.1	-	34.7-41.0
200	151-200	東北学院大学	私立	宮城県	-	63.4	33.7	-	34.7-41.0
200	151-200	東京電機大学	私立	東京都	31.2	61.7	35.7	-	34.7-41.0
200	201+	東京薬科大学	私立	東京都	42.7	-	27.0	-	34.7-41.0
200	151-200	富山県立大学	公立	富山県	47.8	56.9	15.6-26.3	-	34.7-41.0
200	141-150	和歌山大学	国立	和歌山県	32.1	48.9-56.1	36.0	27.7-40.5	34.7-41.0
200	NR	和歌山県立医科大学	公立	和歌山県	77.7	-	-	-	34.7-41.0
1+	NR	愛知学院大学	私立	愛知県	22.0-31.0	48.9-56.1	29.3	-	20.1-34.6
1+	201+	愛知工業大学	私立	愛知県	22.0-31.0	-	15.6-26.3	-	20.1-34.6
1+	201+	朝日大学	私立	岐阜県	40.3	-	-	-	20.1-34.6
1+	201+	足利大学	私立	石川県	-	-	-	27.7-40.5	20.1-34.6

## (2) 大学運営組織の改正について

### ①大学運営の合理化、迅速化、ガバナンス改革 ～スピード感、チャレンジ精神をもって～

(教育公務員特例法による教授会権限の柔軟化)

- 「**大学運営会議**」を設置 (幹部教員で構成、教授会から付託)  
⇒大学全体の運営については「大学運営会議」で責任をもって審議  
⇒教育については「教授会」で審議
- 「**人事専門委員会**」を設置 (教授会から付託)  
⇒丁寧で客観的な人事選考にて「優秀な教員」をリクルート
- 「**特任教員**」の任命 (研究サポート体制の強化：追加経費不要)  
⇒大学特有の職種の確保  
(教学分析、リサーチ・アドミニストレーター、産学連携、情報管理)

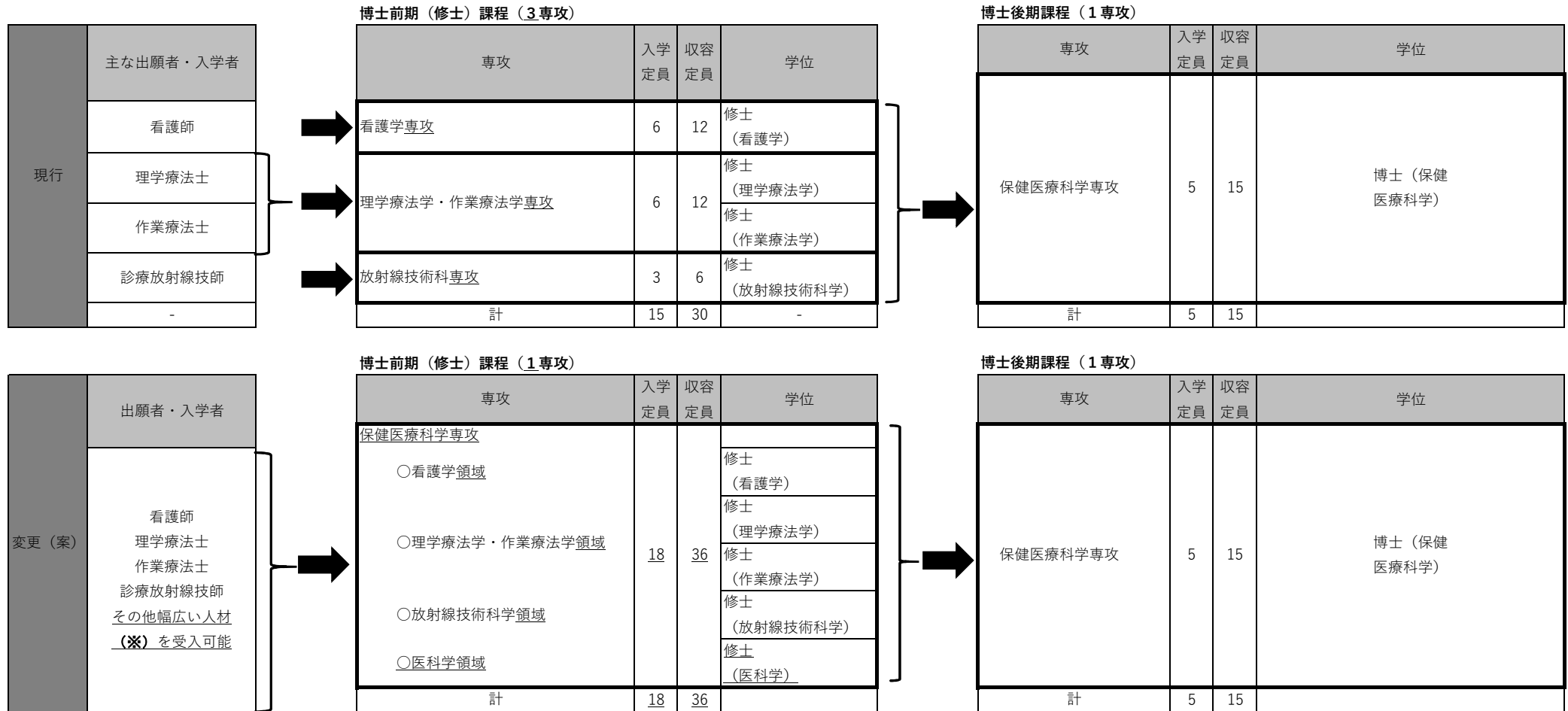
## ②高度医療人養成・研究の重点化

- **大学院修士の1専攻化**（「**医科学領域**」を加える）（文科省提出済）
  - ⇒学際的・分野横断的研究推進と人材育成
- **若手研究者の登用**
  - ⇒若手教員が**研究指導**（論文指導教員）ができる体制の構築
  - ⇒一部の優秀な「助教」の**無期限雇用化**（優秀な若手人材の確保）
- **大学院におけるリスキリング教育の充実をめざして**（将来課題）
  - ⇒医師不足を補える「診療看護師」養成コース設置の検討
  - ⇒「言語聴覚士」専攻課程（2年）設置の検討

### (3) 大学院博士前期（修士）課程の1専攻化について

- 目的 ○地域の多職種協働医療を推進する人材の育成（倫理や統計学等の教育カリキュラム共通基盤の確立、学際的な教育・研究指導体制の構築、異分野研究交流と多職種連携の促進、及び学問領域横断的の共創。）  
 ○入学者が4職種に限定されている現状から、幅広い人材（※）の受入を可能とすること（参考：文科省「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿」）  
 →幅広い人材の受け皿として、既存の3専攻の講義も受講可能な、医科学領域を設定（併せて入学定員を3名増加）
- 手続き ○令和5年5月30日文科省に届出として提出
- 実施年度 令和6年度4月  
 出願期間：令和5年8月22日（火）～8月28日（月）

で囲まれているのが、それぞれ1つの専攻



（※）例：関連学部・学科（言語療法学、臨床工学、心理学、薬学、栄養学、臨床検査学、社会福祉学、農学、工学、情報、生物、社会学、法律学、倫理学、等）



さらなる発展を求めるあなたに



修士を1専攻にして学問領域横断型へ  
出身専門分野を問わず、幅広い人材募集  
全国どこからでもWEB受講可能



### 分野横断的な課題解決能力を 身につけた人材の育成

博士前期課程では、専攻を「保健医療科学」に統合することにより、高度化・複雑化している保健医療分野の課題に対して、複数の領域にわたる高度な専門知識を身に付けた学問領域横断的の共創と多職種協働を推進する人材を育成します。

### 夜間にリモートで 全国どこからでも受講が可能

講義は主に平日の18:30-21:40に遠隔で行うため、日中は研究に打ち込んで夜間に講義を受けることができます。また、日中働いている社会人でも修学しやすくなっています。複数の指導教員の下で、早期から主査・副査のアドバイスを取り入れながら研究を進めることができます。

### 職種に限定されず幅広い 修学や研究が可能

博士前期課程では、「医科学領域」を新設して、職種に限定されることなく、保健医療分野で活躍を望む幅広い学生の修学が可能です。短期大学、高等専門学校、専修学校等を卒業している方でも、出願資格審査を受けることで大学院を受験することができます。

# 地域や国際社会で活躍できる 高度医療人を育成します。

本大学院は、学士課程等の継続教育の場として、地域や国際社会で活躍できる高度医療専門職・教育者・研究者を育成します。博士前期課程では、各専門領域の科学技術や研究能力の基盤形成に重点を置き、さらに博士後期課程では、各専門領域の連携強化に重点を置いて、利用者・患者中心の保健医療を先導して実践できる臨床指導者並びに新領域を開拓する研究者の育成を目指します。

## 教育研究領域

- 令和6年度より、学問分野横断的共創と、地域における医療系の多職種協働を推進するため、博士前期課程を統合します。
- 社会人対応のカリキュラム：講義等は主に平日の夕方・夜間に遠隔で行います。

博士前期課程				博士後期課程
修業年限 2年				修業年限 3年
保健医療科学専攻 定員 18名				保健医療科学専攻 定員 5名
看護学領域	理学療法学・作業療法学領域	放射線技術科学領域	医科学領域	看護学領域 理学療法学領域 作業療法学領域 放射線技術科学領域
取得できる学位				取得できる学位
修士(看護学)	修士(理学療法学) または 修士(作業療法学)	修士(放射線技術科学)	修士(医科学)	博士(保健医療科学)

※看護学領域では、専門看護師(小児看護・老年看護・精神看護)を養成するCNSコースあり。  
※放射線技術科学領域では、医学物理士を養成するMPコースあり。

## 入試概要

### 専攻及び入学定員

- 博士前期課程(修業年限2年)  
保健医療科学専攻……………18名
- 博士後期課程(修業年限3年)  
保健医療科学専攻……………5名

### 出願資格認定申請期間

令和5年7月31日(月)～8月3日(木)

### 出願期間

令和5年8月22日(火)～8月28日(月)

### 試験日程

令和5年10月1日(日) 試験会場：茨城県立医療大学  
合格発表：令和5年10月27日(金)

## 修学支援制度

### 授業料減免制度

経済的な理由により授業料の納付が困難な方は、授業料が免除となる場合があります。

### 長期履修制度

仕事の事情等により標準修業年限(博士前期課程2年、博士後期課程3年)での修了が困難な方は、標準修業年限分の授業料で1年長く修業することができます。

### 教育訓練給付制度

厚生労働大臣により一般教育訓練給付金の対象講座の指定を受けています。一定条件を満たす方は、修了時に授業料等の一部(最大10万円)が雇用保険から支給されます。  
※博士前期課程については、専攻の統合に伴い、申請予定です。



#### (4) 初年次教育への取り組みについて

学務委員会

##### 1 英語教育

- 令和4年度入学生からVELC Test®(英語能力測定・評価研究会)を導入し、本学入学生の英語能力を客観的に評価している。
- 英語教育に関するワーキンググループを設置し、英語能力別のクラス編成や、履修者数の少ない「英語(Speaker course)」(すでに高い英語力を有する学生向け)等について、それぞれ教育効果を検討し、初年次から卒業までの一貫した英語教育の再構築を目指していく。
- さらに英語学習では自己学習に適した学習環境整備も重要であることから、学内施設を利用したself-learning systemの導入についても検討していく。

##### 2 理科教育

- 令和4年度入学試験から理科系科目を1科目選択としたため、高校での学習状況(いわゆる入学試験対策を含め)により、学生間の入学時における理科系科目の学力差が生じている。
- 初年次の理科教育(生物・物理・化学)に関するワーキンググループを設置し、令和6年度からの理科教育について検討を開始している。現行の第5次カリキュラムの枠組みをもとに、より効果的・効率的な授業改善を行うことを目指している。

##### 3 医療基礎教育

- 「医療倫理」「医療安全」「感染管理」「プロフェッショナリズム」「コミュニケーション」等については、すでに各学士課程教育の専門科目やIPE科目等で取り扱っているが、全学での共通認識をさらに深める必要があると考えられる。今後、基礎科目・専門基礎科目における位置づけを明確化し、横断的に取り組んでいく。
- IPE科目のうち、選択科目である「国際多職種種協働実習」及び「地域多職種協働実習」については、可能な限り多くの学生が履修できるよう検討する。

##### 4 情報リテラシー教育

- 人工知能等の先端技術との関連が深い本学の学生にとって、情報リテラシーは大学で学ぶための大前提であるが、現状では個々に苦勞している学生も多い。したがって、1~4年次にわたって教員が個別に対応している現状があり、喫緊の課題である。
- 1年次の早期に情報リテラシーを身につけ、主体的・能動的な学習行動につなげられるよう、全学的な共通基盤として必要となる学習内容や到達度を整理し、現行の「情報処理演習」の授業計画に反映していく。

### (5) アクションプラン後期計画について

2016 年度に開催された、外部の有識者による「第二期茨城県立医療大学改革プラン検討委員会」における、今後の 10 年間に向けての課題と方向性について議論の検討結果を受け、2017 年 3 月に茨城県により策定された「第二期茨城県立医療大学改革プラン」の実行計画である「第 2 期アクションプラン ～10 年ビジョン 2017～」も、策定から 6 年が経過しました。

この間、第 2 期アクションプラン中の「公立大学法人化の検討」について、検討を重ねた結果、法人化に向けて法人中期目標、中期計画の策定作業を進めた所です。この際検討した中期計画は、それまでのアクションプランの後半の期間にあたることから、アクションプランで未達の行動計画、およびそれらを時代や法人運営に合わせた形での計画策定の作業を行ってきました。

その準備途上で、法人化準備作業が中断される事となりました。そこで設置者である県との協議の結果、法人化に向けて作業を進めてきた中期計画を、従前の第 2 期アクションプランの「後期計画」に位置付けることとなりました。

「後期計画」には、法人化を前提に策定された行動計画を、非法人の運営形態で達成できるように内容を修正した形となっております。また行動計画の各項目に対応する形で、KPI (Key Performance Indicator: 重要業績評価指標) を設定し、その達成度の「見える化」に努めています。

「後期計画」の運用は、従来の「アクションプラン運用会議」、「自己点検評価委員会」、「自己点検作業部会」を統合し、新たに「大学の質保証委員会」、「監査組織」、「作業部会」、「アーカイブス部会」を立ち上げ、認証評価および自己点検評価を含めて統合的に実施する計画です。

「後期計画」の期間は、2026 年度までと残り 4 年間と短い期間となっておりますが、新たな組織・計画で、学内一体となり取り組んで参る所存です。

## (6) 付属病院の運営について

### 1 概要

- (1) 設置目的 ・質の高い臨床実習の実践（学生の臨床実習の場の確保）  
 ・教育・研究水準の向上（臨床研究の場の確保）  
 ・地域医療への貢献（リハビリテーション医療の推進）
- (2) 開設 平成8年12月
- (3) 病床数 120床（回復期リハ病棟47床、障害者病棟：成人46床・小児27床）
- (4) 職員数 R5.4.1現在（産休・育休者等は含まない。）

	医師	看護師	療法士	MSW	放射線	薬剤師	検査	栄養士	心理	合計
定員	11	73	65	2	2	3	2	2	1	161
現員	正職員	11(7)	73	56	2	2	3	1	2	151(7)
	会任職員	3	5	1	2	-	-	2	2	17
	計	14(7)	78	57	4	2	3	3	4	168(7)

※医師の( )書きの人数は大学（医科学センター）所属の教員医師

### 2 運営状況

- (1) 臨床実習の受入れ（令和4年度）全体：268人(+56) 学内：218人(+45) 学外：50人(+11)  
 学内：看護学科52人(+5) 理学療法学科66人(+48) 作業療法学科64人(±0)  
 放射線学科36人(-8)  
 学外：①常磐大学看護学科10人(±0) ②水戸メディカルカレッジ看護学科27人(+2)  
 ③水戸看護福祉専門学校7人(+7) ④つくば栄養医療調理製菓専門学校5人(+1)  
 ⑤聖徳大学（臨床心理）1人(+1)
- (2) 臨床研究・治験  
 ・小児の運動機能障害に対するロボットスーツHALの検証的医師主導治験(AMED採択R2.4~R6.3)  
 ・分担目標症例数11例 うち7症例報告済み(R3.7.1現在)
- (3) 診療実績（令和4年度）  
 ①1日平均患者数 外来：71.1人 入院：90.0人（病床稼働率75.0%）  
 ②リハビリテーションの充実（365日リハビリテーションによる平均在院日数の短縮）  
 ・回復期リハ病棟（H26.10~）96.9日→60.6日 ・成人障害者病棟（H29.3~）77.1日→66.1日  
 ・小児障害者病棟（R3.年9月~）44.2日→44.9日

### 3 病院収益の推移

#### 新型コロナ影響期

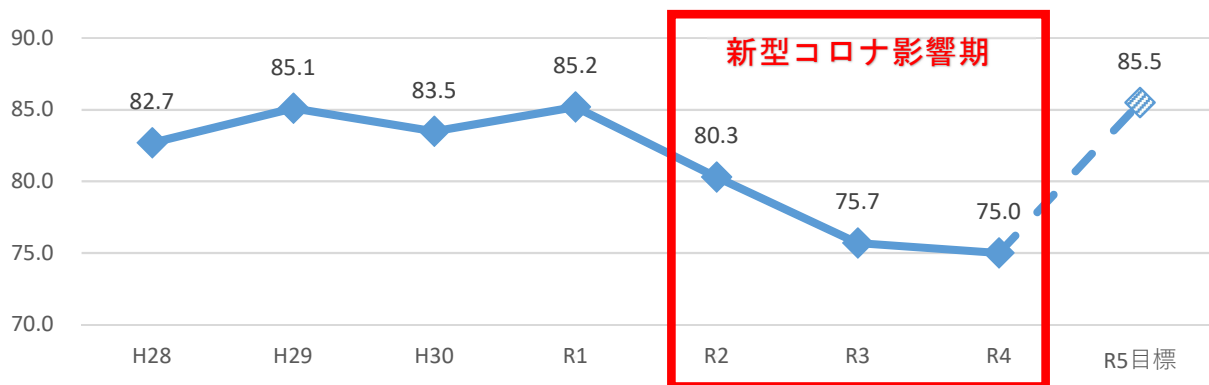
（千円）

区分	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R4予算	R5予算
歳入計（A）	2,889,188	3,004,732	2,995,598	3,141,037	3,195,947	3,719,328
診療収益等	1,569,601	1,460,238	1,466,905	1,449,891	1,774,603	1,812,687
諸収入等	10,755	18,552	20,556	8,043	18,410	17,050
繰入金	1,174,217	1,258,234	1,367,424	1,516,745	1,236,534	1,331,576
歳入に対する割合	40.6%	41.9%	45.6%	48.3%	38.7%	35.80%
前年度繰越金	51,515	121,516	46,560	32,602	30,000	30,000
国庫支出金	0	49,192	9,053	4,556	0	815
県債	83,100	97,000	85,100	129,200	136,400	527,200
歳出計（B）	2,767,672	2,958,172	2,962,996	3,071,228	3,195,947	3,719,328
病院運営費等	2,303,924	2,481,261	2,478,514	2,572,823	2,696,893	3,209,003
職員給与費等	1,368,768	1,419,626	1,427,620	1,430,062	1,520,537	1,566,341
備品購入費	29,430	50,733	56,986	41,197	48,985	529,282
公債費	463,748	476,911	484,482	498,405	499,054	510,325
収支（A）－（B）	121,516	46,560	32,602	69,809	0	0

- ・新型コロナの影響による診療収入の減少に加え、令和4年度は光熱水費などの物価高騰による大幅な支出増により、繰入金がこれまでで最も多い1,516,745千円となった。
- ・令和5年度は、新型コロナ5類以降を踏まえ、速やかにコロナ禍前の診療収入を確保し、繰入金を当初予算の1,331,576千円に抑制する。

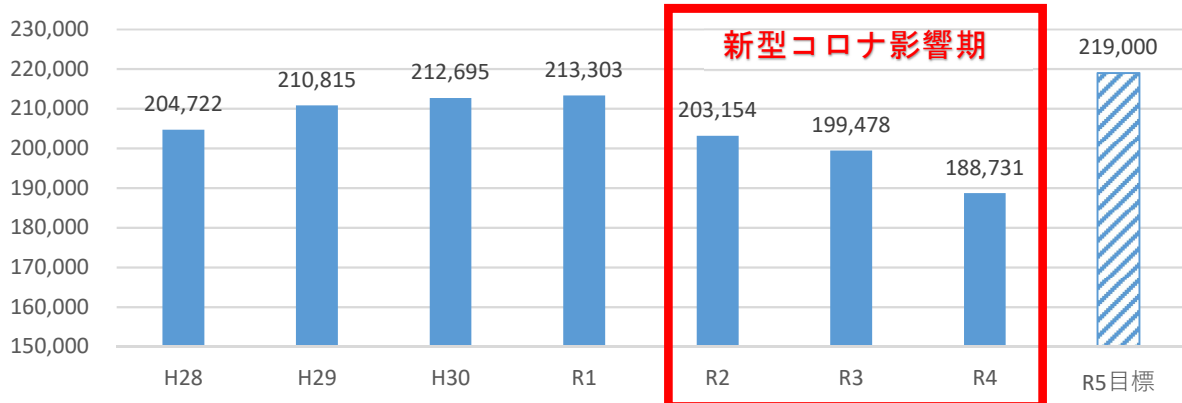
#### 4 経営改善に向けた取り組み

##### (1) 病床稼働率の向上



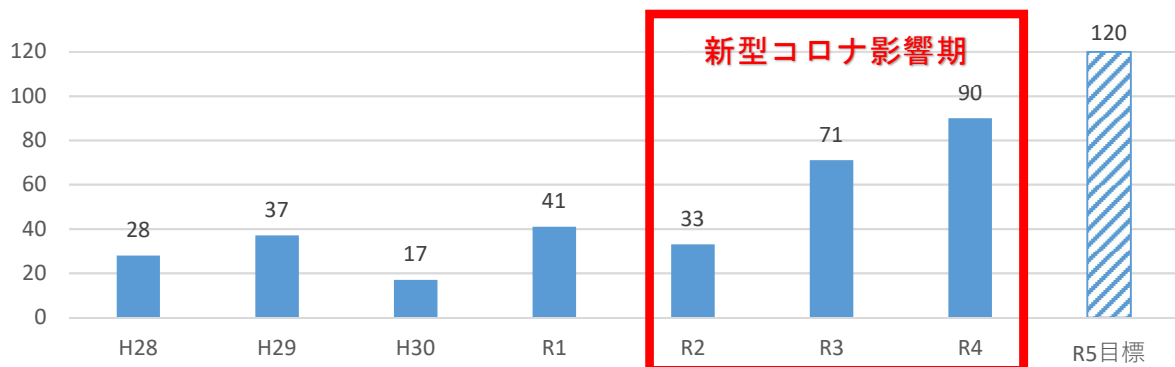
- ・病床稼働率は、令和元年度に過去最高の 85.2% となったが、令和 2 年度以降は、新型コロナウイルスの影響で低下し、令和 4 年度は 75.0% となった。
- ・令和 5 年度は、新型コロナウイルスの影響から脱しつつあり、6 月単月では 82.3% と回復基調にあることから、年間平均 85.5% の達成を目指す。

##### (2) リハビリテーション提供（実施単位数）の充実



- ・リハビリテーション実施単位数は、令和元年度に 213,303 単位となったが、令和 2 年度以降は、新型コロナウイルスの影響による患者数の減少に伴い、実施単位数も減少し、令和 4 年度は、188,731 単位となった。
- ・令和 5 年度は、病床稼働率の向上により患者数が増えていることから、平日と土日の療法士の勤務者数を平準化し、効率的にリハビリテーションを提供することで、219,000 単位の実施を目指す。

##### (3) 手術への積極的な取り組み（手術件数の増）



- ・令和 3 年度から膝関節手術等に積極的に取り組んだ結果、令和 4 年度の手術件数は過去最高の 90 件となった。
- ・令和 5 年度は、手術体制の充実のため、整形外科医 1 名を増員したことから、年間 120 件を目指す。

## (7) 令和5年度 国際交流について

## 国際交流センター

## [センターの活動目標]

国際交流センターは、行政、民間、教育施設等を含めた地域コミュニティの協力を得て、国際的視野を持った医療職者の育成を目指す。

## [体制]

1. 令和5年度より国際交流委員会と国際交流センターを一本化した。
2. 構成員は、センター長1名、副センター長2名およびセンター委員であり、4学科（看護、作業療法、理学療法、放射線技術科学）、2センター（医科学・人間科学センター）、附属病院の教員と事務職員を含む。

## [R5事業計画]

## 1. 台湾・高雄医学大学

- 1) オンライン・グループワーク交流（R5.5～6.16）：作業療法学科の授業「Assistive Technology device」へオンラインで参加（台湾学生約25名、本学13名）した。
- 2) 短期留学生の受け入れ（R5.6.26～7.28）：作業療法学科6名、理学療法学科2名、放射線技術科学科2名の台湾学生を短期留学生として受け入れた(右写真)。
- 3) 国際多職種協働実習(台湾)・II（R6.3.中旬～2週間）：高雄医学大学を訪問し、国際チーム医療の基礎的経験を通じて国際・国内チームワーク医療（多職種連携）を考える。



## 2. ドイツ・ボーフム健康科学大学

- 1) 国際多職種協働実習・I（R5.10.22～10.29）：ドイツにおける医療従事者の多職種協働連携を、大学の講義や地域の施設見学を通して学ぶ。本年度は、学部生7名（NS5名、PT2名）と助産学専攻2名が参加予定である。
- 2) さくらサイエンスプログラム：令和4年度に続き、本年度も申請を予定しており（8月末申請）、10名程度の留学生を受け入れる予定である。

## 3. 無錫市より研修医の受け入れ

医師1名の受け入れ要望があり、附属病院の協力を得て準備を進めている。

## 4. 韓国 湖西（ホソ）大学との交流促進

本学の理学療法学科と交流がある韓国の湖西（ホソ）大学と、将来的なMOU締結にむけた話し合いを進めている。